

塑性加工の総合専門誌

# プレス技術

1

2018  
Vol.56  
No.1

PRESS WORKING

## 特集 加工領域を広げるチューブフォーミング最新動向

巻頭インタビュー (株)カサタニ 代表取締役社長 笠谷昌宏氏「マグネシウムをはじめとした難加工材に挑戦し、世界初のモノづくりを追求する」

好評連載 若手技能・技術者レポート～フジコーポレーション(株)／本気で! JAPANモノづくり戦略

異形状やキズつきやすいフープ材料に適した  
エアグリップ式NC送り装置

### NCG200A・NCG65SA



SSS

**Futaba**  
双葉電子工業株式会社

## 第31回竹内記念・ニュー型研サロン

## 中国駐在生活、LEM トランスファプレス開発秘話、放電精密加工の最新動向

竹内型材研究所

(株)竹内型材研究所(神奈川県伊勢原市:内山真司社長:0463-93-7771)は、「第31回竹内記念・ニュー型研サロン」を11月11日に東京都港区の日立金属・高輪和彊館で開催した。同サロンは竹内型材研究所が主催していた型材研究会から続く親睦団体の勉強会。今回は(株)サイトウティーエムの荻野珠江氏、元(株)能率機械製作所の大山秀夫氏、(株)ソディックエフ・ティの中島宣洋氏の3名が講演した。

まず荻野氏が『海外(中国)で暮らす、働く女性の本音』と題して講演(写真1)。荻野氏は中国、深圳にある提携会社の常駐として5年間の駐在生活を経験。その日常生活の様子や発見など生きた中国事情を披露した。深圳は人口約1190万人の大都市だが駐在員を送り出す上で気になる治安もさほど悪くなく、女性の荻野氏でも不安なく生活できる。日常生活において中国ではスマートフォンを使用したIT化が進んでおり屋台での支払いや、外食デリバリーやタクシーの検索、自転車の貸し出しなどもすべてスマートフォンで行う。国全体が新しいものを貪欲に取り入れ、発展しようとするエネルギーを感じたと荻野氏は振り返った。また荻野氏は「中国では「自身の意見」をきちんと伝えることが何より重要。ただただ気を張るのではなくしっかりと自分の意見を持ち、誠実に向き合えば必ずわかり合える」と駐在生活での学びを語った。

大山氏は『能率機械製作所という会社は、何をやってきたのか??そして今、何を指しているのか??』と題して同社の40年に渡るLEM

トランスファプレスの開発・展開の歴史を紹介した(写真2)。

LEM トランスファプレスはニードルベアリングの外輪や電池缶の加工などに使用されてきた。加工製品の品質化とコスト低減化の両方が実現できる最適作動を目指し、創業者の太木重吉氏はアメリカ製トランスファプレス「WATERBURY FARRREL」をモデルとしながら開発。高品質化のため、プレスの平行精度を維持する多点支持方式を採用するなどの数々の創意工夫を資料と共に解説した。

中島氏の講演は「ここまできた超微細放電加工～技能検定の現状から超難加工まで～」。中島氏は現在、(株)ソディックエフ・ティのSNM事業部のマイクロナノ加工部加工開発にてユーザーからの高精度な超微細加工の依頼を請け負っている。また、後任の育成に尽力し、放電加工に関する技能検定委員も歴任している。講演の中で中島氏は現在の技能検定試験の仕組みについて詳しく解説した(写真3)。また、素材径0.4、長さ0.8mm、端面溝深0.009mm、端面溝R0.009mmの超微細パンチ加工などの超微細加工事例を多く紹介。放電精密加工の最新技術の飛躍を提示した。



写真1 市民生活についても多く触れた



写真2 さまざまな資料とともに開発の歴史を解説



写真3 超微細加工の事例を紹介